

第7回薬物製剤と粒子設計シンポジウム／全国工業薬剤（産学研） サミットフォーラム（中国顆粒学会 薬物製剤と粒子設計委員会 主催）

The 7th Symposium on Particulate Preparations and Designs Summit Forum of Industrial Pharmacy in all China

砂田 久一*
Hisakazu Sunada



2025年9月13日・14日の2日間、中国瀋陽市のシェラトンホテルにおいて、第7回薬物製剤と粒子設計シンポジウム／全国工業薬剤（産学研）サミットフォーラム（第七屆葯物制劑与粒子設計檢討会 全国工業葯劑産学研高峰會議）が開催された。このシンポジウムは隔年で開催され、粉体関連分野のシンポジウムでは中国最大規模といわれている。特に「葯物制劑与粒子設計檢討会（葯物製劑と粒子設計シンポジウム）」は、粉体工学会（製劑と粒子設計部会）の「製劑と粒子設計シンポジウム」を参考に設立された檢討会である。

学術委員会の名誉主席は崔福德・瀋陽葯科大学名誉教授、主席は唐星・同教授、秘書長は石凱・同教授が務めた。参加者は約500名であり、日本からは筆者（特別招聘）、小川真裕氏（エーザイ株式会社）、島田泰拓氏（株式会社ナノシーズ）、根本源太郎氏（大川原化工機株式会社）の4名が参加した。あいにく同時期に日本国内外でシンポジウムや展示会が重なっており、今回は少人数での参加となった。

講演は、特別講演が1会場で行われ、その他の一般講

演は2会場に分かれて実施された。大学など学術機関からの講演は58件、企業からの講演は8件であった。また、会場前のロビーには多数の展示ブースが設けられ、多くの企業が出展していた。ブース出展料は日本国内の類似会議と比較して10～20倍程度と高額であり、その収入によって参加費を無料とする形で運営されていた。

小川真裕氏は「エーザイにおける連続生産技術を用いた新薬2製品上市で得た知見と課題」、島田泰拓氏は「粉体物性測定装置の紹介：せん断試験、吸湿試験、粒度分布、静電力測定」、根本源太郎氏は「噴霧乾燥技術、特に有機溶剤を含む場合の乾燥技術」についてご講演された。いずれも企業の技術ノウハウを含む発表であったため、多くの聴講者の関心を集め、活発な質疑応答が行われた。

初日の講演後には懇親会が開催された。近年、中国では公務員や大学関係者の宴席参加に関して一定の自粛が求められているとのことで、本会でもアルコールの提供は控えられていた。特に茅台酒のような高級酒も公式の場では提供が難しくなっているとのことで、近年は販売量が減少し、割引販売も見られるようである。我々のテーブルには特別のご配慮で、生ぬるいビールと氷を出していただき、控えめながらも和やかな雰囲気の中で交流を深めることができた。このような状況がいつまで続くのかは分からないが、次回の開催時には、従来のようにアルコール類も提供され、活発な交流に戻ることを願っている。

2025年10月13日受付
名城大学名誉教授
(〒468-8503 愛知県名古屋市天白区八事山150)
Emeritus Professor, Meijo University
(Yagotoyama 150, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-8503, Japan)
* 連絡先 sunada@meijo-u.ac.jp

2025 年度秋期研究発表会報告

Report of Autumn Meeting 2025

飯村 健次*
Kenji Iimura

一社) 粉体工学会の 2025 年度秋期研究発表会が、去る 10 月 14, 15 日の両日、同時期に開催された POWTEX®2025 に先立ってインテックス大阪センタービル・国際会議ホールをメイン会場に開催された。好天に恵まれ季節外れの暑さの中、計 228 名(うち粉体工業技術協会(以下協会)経由登録者 49 名)の参加登録があり、非常な盛会となった。講演件数は BP 賞対象講演の 44 件を併せ、合計 71 件と多くの申し込みを頂いたことにこの場を借りて感謝申し上げます。

研究発表会は、粉体工学会論文賞、APT 賞、研究奨励賞、APT Outstanding International Contribution Award の各賞の授賞式を皮切りに始まった。全受賞者をご紹介することは割愛するが、受賞された皆様にはこれまでの粉体工学会に対する貢献を感謝するとともに、今後ますますのご活躍をお祈りしたい。続く受賞講演では、論文賞受賞の千葉大学 川嶋大介氏、APT 賞受賞の北見工業大学 大野智也氏、Zhejiang University Jiangkuan Xing 氏、第 32 回粉体工学会奨励賞受賞者の大阪公立大学 大崎修司氏よりそれぞれご講演を頂いた。内容については割愛するが、いずれも受賞に相応しい内容であり、今後の益々の発展を期待させるものであった。

また、上述の粉体工学会から授与された賞の他、粉体工学情報センターより授与される IP 奨励賞の受賞記念講演が行われた。本年度は和歌山県立医科大学の門田和紀氏が受賞されており、これまで同氏が行ってきた医薬品及び機能性食品の有効成分を効果的に利用するための機能性微粒子設計についてご講演を頂いた。また、2 日目には粉体工学情報センター役員の方々ご列席の上で盛大な授賞式が執り行われた(写真 1)。門田氏に心より祝福申し上げますとともに、益々のご活躍を期待したい。

1 日目 14 日の午後は BP 賞対象講演のショートプレゼンならびにポスター発表が開催された。講演数は 44 件

と例年以上の応募があった。今後も積極的な応募を期待したい。厳正な審査の末、下記の発表者による 5 件の講演が BP 賞に選ばれた。(敬称略、順不同)

横浜国立大学 山崎 理子 氏「非水系 Si₃N₄ スラリーの凍結挙動制御のための微粒子界面設計」
法政大学 中村 佳生 氏「界面活性剤の種類及び添加量が複合めっき皮膜中の粒子含有量に及ぼす影響」
大阪大学 奥野 賢汰 氏「体積型レベルセット DEM における接触力モデルの検証と非球形粒子挙動の解析」
大阪大学 大久保 恵太 氏「水平加振による粉体対流の駆動機構の解明と粉体攪拌機への応用」
大阪大学 井上 隆介 氏「濡れた粉体柱の自重崩壊における安定性理論と数値解析」
名古屋工業大学 荻谷 泰斗 氏「断面画像を用いたポリマー複合材料中のシリカナノ粒子分散状態の解析」

見事 BP 賞に輝かれた諸氏に心よりお祝い申し上げますとともに、今後の粉体工学の発展への貢献を期待する。ご覧の通り、例年以上の受賞者数となったことから分かるように、現在粉体工学会では若手研究者の奨励に注力している。今後も継続して行っていく予定であり、学生ならびに若手研究者諸氏の益々の積極的な発表に期待



写真 1 粉体工学情報センター IP 奨励賞授賞式の風景

2025 年 12 月 3 日受付
兵庫県立大学大学院工学研究科化学工学専攻
(〒 671-2280 兵庫県姫路市書写 2167)
Department of Chemical Engineering, Graduate School of Engineering,
University of Hyogo
(2167 Shosha, Himeji, Hyogo 671-2280, Japan)

* 連絡先 iimura@eng.u-hyogo.ac.jp

したい。

また、2日目の15日には技術賞対象講演を集めた粉体技術セッションがPOWTEX®2025との協賛で開催された。発表件数は5件とやや低調であったものの、いずれも各企業・研究機関を代表するに相応しい新技術で、甲乙つけ難いものであった。筆者も拝聴したが、極めてレベルの高い争いであったと思う。厳正な審査の末、下記の発表者による1件が技術賞を授与された。

ホソカワミクロン株式会社 東郷 智美 氏「歯周病向け PLGA ナノ粒子の開発」

不断の努力の末、見事技術賞の栄誉を勝ち取られた当該研究グループにお祝いを申し上げます。受賞された研究はもちろんのこと今回発表された技術が広く一般に広まり、粉体工学により豊かな生活、豊かな社会が実現することを切に願う。技術賞は例年に倣い POWTEX®2025 レセプション内で授賞式が執り行われ大きな祝福が寄せられた（写真2）。今後も各社選りすぐりの研究を是非技術セッションでご発表頂くようお願いしたい。

また、同日にはシンポジウム「省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携シンポジウム」が開催された。第1登壇者は、千葉大 桑折 道済 先生であり、「粒子表面特性制御に基づく構造色材料の開発」、第2登壇者として大阪公立大学 北山 雄巳哉 先生より「界面における光反応が拓く機能性高分子微粒子創出技術」、第3登壇者として岐阜薬科大学 伊藤 貴章 先生より「エレ



写真2 授賞式における白川会長と受賞者

クトロスピニングを用いた核酸・タンパク質の粉末製剤化」とそれぞれ題したご講演を頂いた。いずれもまさに最先端の研究であり、聴衆にとって関心の高いトピックスを分かり易く説明頂いた。非常に質の高い魅力的なシンポジウムであったと思う。

粉体技術セッションならびにシンポジウムについては続いて詳細な報告を頂く。最後に、2025年度秋期研究発表会にご参加いただきました皆様に重ねてお礼申し上げます。

シンポジウム報告記
Symposium Report

2025 年秋期研究発表会・シンポジウム報告

Report on the SPTJ Autumn General Meeting and Symposium 2025

山本 徹也*
Tetsuya Yamamoto

1. はじめに

秋期研究発表会の2日目（10月15日）14時45分から17時まで、粉体技術セッションと同じインテックス大阪センタービル2階国際会議ホールにおいてシンポジウムが開催された。このシンポジウムは例年と同様、POWTEX®2025 国際粉体工業展大阪の併催行事になっており、工業展来場者も無料で参加できる。

このシンポジウムでの講演概要を以下に記す。

2. 講演概要

本シンポジウムは粉体工学会の研究会の一つである「省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携研究会」が企画している。当研究会では環境・省エネ・低コストをキーワードに新しい粒子設計と粉体プロセスを薬工連携により提案し開発することを目指している。薬学と工学の連携、産・学の連携により、既存枠を飛び越えた新たなシーズ・ニーズの発掘や研究の迅速化を図っており、年に二回の研究会を開催している。本シンポジウムでは下記3名の新進気鋭の研究者にご講演いただき（写真1）、専門分野の常識に囚われない分野横断的な議論を行える薬工連携の場を提供する。

〈講演1〉「粒子表面特性制御に基づく構造色材料の開発」

千葉大学 ○桑折 道済氏, 前島 結衣氏

自然界の色のうち構造色に関する講演でした。構造色は微細な構造が光を反射して生まれる色であり、シャボン玉やCDの虹色がその例である。色素色は紫外線などで退色しやすいが、構造色は微細構造が維持されれば色褪せることがない。構造色は独特の光沢があり様々な応用が期待されており、本講演では自然界の生物の発色にメラニンが重要な役割を果たしていること、昆虫や鳥の鮮やかな色が微細構造に由来していることに着目した。

特にメラニンは光の干渉や散乱を助け、発色を鮮やかに見せる効果があることが重要である。この研究ではメラニン系の構造色材料の開発が進められており、特にポリスチレンコア粒子にポリドーパミンを被覆した粒子が使用され、色彩の高い構造色の創出を可能にする画期的な内容であった。

〈講演2〉「界面における光反応が拓く機能性高分子微粒子創出技術」

大阪公立大学 北山 雄巳哉氏

高分子微粒子は塗料や接着剤などの工業用途で広く使われており、最近では微粒子の形状をそのまま活用する方法が進められている。特に中空粒子や高分子カプセルの開発が注目されており、これらは光を散乱させる特性を持ち塗料や化粧品などに利用されている。本講演であつかう「界面光架橋反応」という手法では、紫外光を照射することで粒子の外側のみで光反応が進行し内部を未

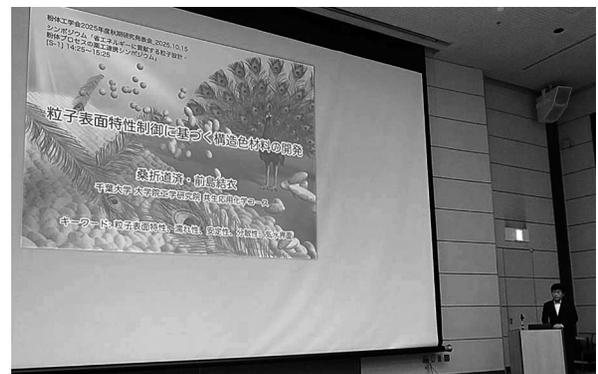


写真1 シンポジウム講演者の皆様

2025年11月5日受付
名古屋大学
(〒464-8603 愛知県名古屋市千種区不老町)
Nagoya University
(Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya, Aichi 464-8603, Japan)
* 連絡先 yamamoto.tetsuya@material.nagoya-u.ac.jp

反応の状態に保つことができる。これにより中空粒子やカプセルを得ることが可能になった。また安全性の向上のために紫外線の代わりに可視光領域で反応を行う方法についても展開され、新しい微粒子中空化プロセスの開発を期待させる内容であった。

〈講演3〉「エレクトロスピンニングを用いた核酸・タンパク質の粉末製剤化」

岐阜薬科大学 伊藤 貴章 氏

核酸やタンパク質を使用した医薬品は高い特異性と柔軟性があり難治性疾患に有望であるが、一般的に注射投与が必要で高侵襲性である。また保存に特別な冷蔵設備が求められ、特に発展途上国では扱いが難しい。呼吸器疾患には吸入剤が効果的で特に吸入粉末剤（DPI）が注目されているが、DPI 開発には熱に弱い薬物の分解や粉末の分散性などの課題がある。この講演では熱を使わず

に DPI を製造できるエレクトロスピンニング（ES）法に注目しナノファイバーを利用した新しい製剤を設計している。この方法により、強い吸引が不要で患者の呼吸能力に依存しない吸入療法が可能になると期待される。具体的にはプラスミド DNA や消化酵素を用いて肺に送達できる安定した DPI の開発を進められた。粉体工学の馴染みの深いカスケードインパクトを用いた薬剤肺送達実験結果を示された。

3. おわりに

講演者らが発表する数々の論文の質がとて高く、参加者の研究に対するモチベーションの向上につながったものと想像する。乾式と湿式、工学と薬学の分野融合、横断的な本講演を通して、参加者の研究展開力の一助となれば幸いである。

発音記号 /ə/ で表現される音は、英語では「schwa sound (シュワサウンド)」と呼ばれ、「あ」でも「い」でも「う」でもない曖昧な音である。と教科書には書いてあるけどあまり理解できていない。バーボンウイスキーの「bourbon [b'ɑ:b(ə)n/]」の「ə」が更に良く判らない「鍵付き曖昧母音」とやらである。長年の友人で、筆者のダメダメ英語発音が普段は普通に聞こえている（ふりをしてくれている）米国人に「バーボン」と言い、全く通じなかったときはそれなりにショックだった。その日は単に筆者に酒を呑ませたくなかっただけなのかも知れない。ところでこの bourbon がフランスのブルボン朝の Bourbon と同じスペリングであることにある日気付いて興味を持った。アメリカ独立戦争の折に、仏ブルボン朝がアメリカ側を支援したことの感謝として、ケンタッキー州の一つの郡を「バーボン郡」と名付け、それが同地方で生産されるウイスキーの名称になったのだとのことで由来も関係もまるでであったのである。ところでバーボンのラベルには手書きでなにやら書いてあるデザインのものがないのだが、いざ読んでみるとだいたい大したこと書いてないんだよね。昔々に飲んだボトルに「我が社は南北戦争のときに必要だった消毒用アルコールを生産するために蒸留を開始したのである」との高らかな宣言があったように記憶しているのだが、今回改めてネットでさんざん探したがどうにも見付からない。読者の中でご存知の方がいましたら是非ともご一報下さい。(BB)

四分法

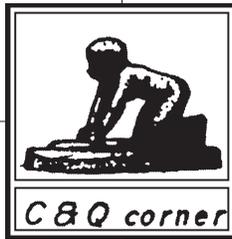
爆発による粉塵

爆発によって、構造物等を破壊したり岩盤や山等に穴を開けたりする時、飛石や粉塵が発生します。一般に開放された場所で爆発させた場合、飛石が遠くまで飛散し、予期しない災害を起こすことがあります。飛石の飛散防止のため、構造物をカバーで覆ったりします。粉塵は大気中に自然に飛散していくので、特に対策をすることはほとんどありません。密閉された場所で爆発させた場合、飛石は密閉空間から外部に飛散することがないので、飛石の対策をする必要はありません。一方、粉塵は軽いためにいつまでも浮遊して、なかなか地面に落下しません。粉塵がなくならないと視界を確保できません。また呼吸する際に吸い込んで健康被害を起こす危険があるために、密閉空間内に立ち入ることができません。

著者は、爆発ピットと呼んでいる小さな密閉空間内で爆発実験をしています。爆発ピットの地面には砂が敷いてあり、爆発実験をすると、その砂の一部は粉塵となって爆発ピット内に浮遊します。大型プロアーで粉塵を排出させますが、完全に排出するまでに時間がかかります。また、歩くと地面に積もった粉塵が舞い上がります。粉塵は爆発実験をするたびに細かくなっていきます。作業着にも粉塵は付着するために、人が出入りする事で解析用精密機器がある部屋にも入ってきます。机・椅子・床だけでなく実験装置にも粉塵が積もり、場合によっては装置内部にも入ってしまいます。精密機器にとって粉塵は好ましくないのです。対策をするのですが、十分な効果がありません。なにか簡単で効果的な対策はないのでしょうか。(忍者)

先日家族で東京ドームへ野球観戦に行きました。チケットをいただいていた観戦だったため、野球は大好きですが残念ながらどちらも応援しているチームではなく、おかげで(?)一喜一憂せずゆったり観戦できました。東京ドームはご存じの通り、ドーム内の圧力を外と比べて高くして、400 ton の屋根を支えています。ではどれくらい高くしているかご存じでしょうか? 僅か 0.3% 程度です。また、投手が投げた球が何故曲がるのでしょうか? これらは大学で習う流体力学で簡単に説明ができます。最近の粉体研究は微粒子を扱うことが増えており、回転まで考える必要がないかも知れませんが、野球では回転が運動に影響しますし、東京ドームのような場を作るために科学が役立っております。私が学生の頃は部活での練習において「水を飲むな」と言う精神論ベースの指導が残っていましたが、最近では投球においてはラブソードなどを使って回転数を計測したり、ランナーにおいては心拍数や血液検査で得られる数値を基に科学的に分析して指導することが普通に行われており、その成果がアスリートのパフォーマンスも格段に向上していますね。なお今回の野球観戦は飲み放題の席だったため、ビールを何杯も飲んでしまいました。試合内容ではなく、お酒により心拍数が上がってしまい、飲酒の指導が家族より私に入りました。スポーツと科学との関係を意識しつつ、皆様も健康に留意しながら観戦を楽しんでいただければと思います。

(くじら)



C&Q corner

四分法

紅葉前に熊警報発令中

今年は、日本各地で熊による被害が相次いで報告されている。私も最近、知人に誘われて山登りを計画しているが、熊だけでなく、シカやイノシシなどの野生動物との思わぬ遭遇が少し気かりである。山では猛暑などの影響で食料が不足しているという報道もあり、熊は冬眠前に栄養を蓄えるため、山から人里へと降りてくることもある。さらに、暖冬の影響で冬眠期間が短くなり、活動する時期が長くなっていることも一因とされている。加えて、里山の管理が行き届かなくなったことで、野生動物の暮らす場所が狭まり、結果として行動範囲が広がっている。ちょうどこれからの季節は紅葉が美しく、山歩きにはぴったりの時期だが、その一方で熊との遭遇リスクも高まる時期でもある。

こうした状況に対して、熊対策グッズの中には粉体技術を活かした製品の開発も期待される。たとえば、熊の嗅覚を刺激して山中での餌探しを促す香料成分をスプレーする誘引技術や、熊の好む果実や木の実を模した栄養補助粒子を山に散布することで、人里に降りてくる理由を減らす工夫などが考えられる。これらは熊との直接的な衝突を避けながら、自然の中で共に暮らすための環境づくりに役立つかもしれない。

自然との境界が少しずつ曖昧になってきている今、登山などのように山に入る行為自体を改めて見つめ直す必要があるかもしれない。熊に出会わないための知識や備えを持ち、自然との距離感を意識することが求められる。安心して紅葉狩りに行けるように、粉体技術を活かし、野生動物との穏やかな共存が、これからの季節にはより一層重要になると思う。

(Little-Zebra)

一般社団法人 日本粉体工業技術協会 本部：〒600-8176 京都市下京区烏丸通り六条上ル北町 181 番地 第5キョートビル7階
 TEL 075-354-3581 FAX 075-352-8530
 一般社団法人 日本粉体工業技術協会 東京事務所：〒113-0033 東京都文京区本郷 2-26-11 種苗会館5階
 TEL 03-3815-3955 FAX 03-3815-3126

◆ **協会行事日程のご案内**

最新情報は協会サイトからご確認ください。
 行事の詳細は京都・協会本部または東京事務所にお問合せ下さい。

行事名	月日	場所	備考
第73回粉体技術専門講座 (混合・成形分科会企画)	2月4日(水)	大阪/TKP新大阪カンファレンスセンター	10:00～16:50 17:00～19:00 交流会
粉体技術者養成講座「ろ過」	2月4日(水)～5日(木)	大阪/関西金網(株)	1日目 10:00～17:30 18:00～20:00 交流会 2日目 9:00～16:30
第81回水曜会	2月18日(水)	名古屋/名鉄グランドホテル	17:00～19:30
第4回諮問会議	2月26日(木)	東京/種苗会館	14:00～16:30
第79回金曜会	3月6日(金)	福岡/福岡ガーデンパレス	17:00～19:30
第4回理事会	3月12日(木)	京都/ホテルグランヴィア京都	14:00～16:30

◆ **分科会の開催案内**

会員の方ならどなたでも参加できます。非会員の方でも参加できますので、参加を希望される場合は、各分科会の申込み先あるいは協会本部までお問合せください。分科会の活動状況と詳しい開催案内は協会ホームページでご確認ください。

行事名	月日	時間	場所
第3回粒子加工技術分科会	2月6日(金)	9:30～16:50	大阪/太陽ファルマテック(株)高槻工場 他
第2回造粒分科会	3月6日(金)	10:00～19:00	東京/中央大学 後楽園キャンパス
第3回(通算200回)粉体ハンドリング分科会	3月12日(木)	13:10～17:15 (懇親会 17:30～19:00)	京都/ホテルグランヴィア京都

分科会開催案内



https://appie.or.jp/introduction/organization/technical_groups/

◆ **粉体関連総合情報誌「粉体技術」**

日本粉体工業技術協会が発行する月刊「粉体技術」は、粉体に関わるあらゆる技術、粉体領域に関する最新情報、マーケティング・マネージメントおよび海外情報など幅広い内容を網羅した粉体関連産業に携わる方々への総合情報誌です。一般の書店などでは容易に入手できませんので、ぜひ予約購読をお願い致します。

【最新号】2025年2月号「POWTEX2025—国際粉体工業展大阪を終えて」



<https://appie.or.jp/shirumanabu/publishing/funtaigijyutu/>

粉体工学会 行事予定

☆ 主催行事

開催期日	行 事	会 場	掲載巻・号
2026年			
3月30日(月)	2026年度第1回粉体グリーンプロセス研究会	兵庫県立大学 姫路工学キャンパス(兵庫)	63巻1号
5月11日(月) } 15日(金)	WCPT10	グランキューブ大阪(大阪)	https://wcpt10.org/

☆ 特別協賛行事

開催期日	行 事	会 場	掲載巻・号・URL
2026年			
11月25日(水) } 27日(金)	POWTEX2026(第46回国際粉体工業展)	東京ビッグサイト(東京)	https://www.powtex.com/tokyo/

☆ 共催, 協賛, 後援行事

開催期日	行 事	会 場	問合せ先	TEL (FAX) E-mail URL
2025年				
8月1日(金) } 2026年 2月28日(土)	粒子・流体プロセス技術コース2025(第39回流動層技術コース)	群馬大学(群馬)他	粒子・流体プロセス技術コース事務局	0277-30-1456 yhayashi@gunma-u.ac.jp https://sites.google.com/site/atwfbtc/
2026年				
2月5日(木) } 6日(金)	GMPセミナー「医薬品製造に関わるGMPの最新動向:講演&見学会」	大阪科学技術センター(大阪) 見学会:(株)ワイエムシイ 小松事業所(石川), 十全化学(株)本社・工場(富山), 協和ファーマケミカル(株)本社・工場(富山), JCRファーマ(株)(兵庫)	化学工学会関西支部	06-6441-5531 apply@kansai-scej.org https://www.kansai-scej.org/topics/6805
2月6日(金)	製剤と粒子設計部会2026年度第1回見学・講演会	太陽ファルマテック(株)高槻工場(大阪)	粉体工学会製剤と粒子設計部会	n-asai-q2jx@dalton.jp https://eventregist.com/e/bTxaL2HSQK50
2月25日(水)	PLCM研究会第19回シンポジウム	名城大学薬学部ライフサイエンスホール(愛知)	PLCM研究会	090-3932-3279 sunada@meijo-u.ac.jp
2月27日(金)	第10回物性FGセミナー 医薬品開発における熱分析の基礎から応用	大阪医科薬科大学(大阪)	日本薬剤学会	072-690-1217 hiromasa.uchiyama@ompu.ac.jp

3月6日(金)	2025年度第3回晶析分科会	ファインセラミックセンター(愛知)	日本粉体工業技術協会 晶析分科会	crystallization@noritake.com https://appie.or.jp/wp-content/uploads/2026/01/250306shoseki.pdf
3月9日(月)	2025年度合同分科会(第4回集じん分科会, 第2回分級ふるい分け分科会) (共催)粉体工学会 集塵技術の多機能化研究会	日清製粉(株)東灘工場(兵庫)	合同分科会事務局	https://forms.cloud.microsoft/r/cjayCDiZD1
3月18日(水)	第365回塑性加工シンポジウム「スマート工場実現に向けたDXの深化」 <2026年度塑性加工春季講演会併設企画>	静岡大学 浜松キャンパス(静岡)	日本塑性加工学会	03-3435-8301 jstp@jstp.or.jp http://www.jstp.or.jp
3月23日(月)	表面科学セミナー2026 実践! インフォマティクスと自律計測の基礎と応用	大田区産業プラザ PiO(東京) (ハイブリッド開催)	日本表面真空学会	03-3812-0266 office@jvss.jp https://www.jvss.jp/ja/activities/06/detail/00024.html
4月21日(火) } 22日(水)	第43回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会	早稲田大学国際会議場(東京)	日本空気清浄協会	03-3665-5591 jaca@jaca-1963.or.jp https://www.jaca-1963.or.jp/
11月1日(日) } 6日(金)	コロイドおよび界面化学部会50周年記念国際会議(Okinawa Colloids 2026)	万国津梁館(沖縄)	Okinawa Colloids 2026 組織委員会	admin@okinawacolloids.jp https://okinawacolloids.jp/

▶ 会員 消息

会 員 数

2025年12月26日現在

維持会員	19社
賛助会員	68社
事業所会員	231社

個人会員	361名
学生会員	127名
図書館会員	15社
名誉会員	91名
会員総数	912

粉体工学会誌 表紙デザイン募集

和文誌編集委員会



粉体工学会誌は、1964年の創刊以来、その歴史を刻む中で、表紙デザインを幾度となく刷新し、会員の皆様に新鮮な印象を提供してまいりました。10年ごとのデザイン変更に加え、年ごとの色調の工夫は、各巻の個性を際立たせてきました。2017年の誌面サイズ変更（B5→A4）に伴い採用された現行デザインから10年。2027年、学会誌は新たなステージへと踏み出します。未来を見据え、学術的探求心を体現する、洗練された表紙デザインを募集いたします。皆様の創造性あふれるご応募をお待ちしております。

応募期間：2026年9月30日（水）必着

応募資格：特になし（会員・非会員は問いません）

応募方法：電子ファイル（Word, PowerPoint等）にてご提出ください。特殊なソフトウェアで作成された場合は、紙媒体を下記宛先までご送付ください。

作成サイズ：A4サイズ

賞と採用：採用作品（1点）には謝礼として10万円を贈呈いたします。

採用されたデザインは、2027年第64巻1号から2036年第73巻12号の表紙として使用される予定です。

注意事項

- (1) 応募作品は未発表のものに限ります。
- (2) 応募作品の選考および最終的なデザインの決定は、粉体工学会誌編集委員会が行います。選考経過や結果に関する個別のお問い合わせには応じられません。
- (3) 採用作品に関する著作権その他一切の権利は、粉体工学会に帰属するものとします。
- (4) 採用作品については、編集方針や誌面構成上の理由、または媒体の特性により、粉体工学会の判断で必要な範囲で細部修正を行う場合があります。
- (5) デザインの主要部分または全てを、生成AIを用いて自動生成した作品は応募不可とします。応募者自身の独創的なアイデアと創作による作品に限ります。
- (6) 応募作品が第三者の著作権を侵害していないか、ご自身で事前に十分にご確認ください。万が一、応募作品に起因する権利侵害により、粉体工学会に損害が生じた場合には、当該応募者に対し損害の賠償を請求する可能性があります。
- (7) 応募作品は返却いたしません。

お問い合わせ・送付先：粉体工学会 和文誌編集事務局

〒600-8176

京都市下京区烏丸通六条上ル北町181 第5キョートビル7階

E-mail: kaishi@sptj.jp

先日、研究室でたこ焼きパーティーをしました。今は便利な時代で、水と卵を入れるだけで生地が出来上がる、魔法の粉があります。かつおや昆布のおだしが入っていて、美味しくできるらしい。すごいですね。そんな魔法の粉を使って、簡単にできる…はずでした。学生さんが何やら焦っているので、見てみたら、生地が豪快にダマダマになり格闘中…。全然カタマリがなくならない(泣)…とのこと。ボウルに粉をザーっと入れて、水をドバーっと入れて卵を割り入れました…なるほど。料理には、段取りや手順、ちょっとしたコツが大事なのよ。料理だけじゃないのよ、実験も同じ…。これから手順や段取りなどを身につけて、立派なたこ焼き生地を作れるように、いや、実験ができるように、頑張りましょう。なんて思ったりしました。ちなみに、説明書の通りにかき混ぜたら、簡単にきれいな生地が出来上がり、粉体技術の進化と基本的な手順の大事さを改めて実感した次第です。

さて、今月号は、研究論文と新・基礎粉体工学講座、2025年秋期のシンポジウム報告、四分法などが掲載されている、いつもの粉体工学会誌です。研究論文や総説・解説などの充実が、基本的なことでありながら、本誌のさらなる発展につながります。皆様からのご投稿をお待ちしています。末筆となりますが、読者の皆様と、本号の発行にあたりご尽力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。(どんぐり)

本会誌は会員の皆様の原稿でつくられます。会員の皆様方からの論文のほかに、解説、総説、技術資料、講座・講義等の依頼記事ならびに学位論文紹介、海外報告、四分法等の一般記事のご投稿もお願いいたします。投稿用テンプレートならびに投稿規程および投稿の手引きは当会のホームページ (<https://www.sptj.jp>) よりダウンロードできます。投稿規程と投稿の手引きは、1号に掲載しています。

編集委員

委員長	飯村 健次	
副委員長	田原 耕平	
編集委員	梅本 賢	大崎 修司
	小川 法子	門田 和紀
	小澤 隆弘	近藤 光
	高井 千加	綱澤 有輝
	中村圭太郎	仲村 英也
	深澤 智典	藤 正督
	松永 拓郎	三野 泰志
	山本 徹也	吉田 幹生
事務担当	奥村 しのぶ	

◆ 次号予告 ◆

巻頭言 ものづくりを支える微粒子技術…………… 加藤 厚宏

2025年度 春期研究発表会特集

論文 不活性粒子混合下における Pt 触媒粒子の集団運動の変化 …… 大山 夏奈 他
 論文 高温塩化水素ガス雰囲気における PPS 製ろ布の劣化挙動評価 …… 藤原 萌子 他
 論文 加圧環境下での垂直振動粉体ポンプシステムによる粉体毛細管現象…………… 鈴木 奏大 他

新・基礎粉体工学講座 第2章 粉体の生成と生産プロセス

2.4.6 湿式メカノケミストリー…………… 小澤 隆弘

令和8年1月30日印刷
 令和8年2月10日発行

粉体工学会誌

© The Society of Powder Technology, Japan

第63巻第2号(通巻681号)(2026)

一般社団法人粉体工学会：〒600-8176 京都市下京区烏丸通六条上ル北町181 第5キョートビル7階
 TEL: 075-351-2318 FAX: 075-352-8530
 No. 5 Kyoto Bldg., 181 Kitamachi, Karasuma-dori, Rokujo-agaru, Shimogyo-ku, Kyoto 600-8176, Japan
 E-mail: office@sptj.jp(庶務) kaishi@sptj.jp(和文誌編集) URL: <https://www.sptj.jp/>

編集兼発行人：一般社団法人粉体工学会(代表理事会長 白川 善幸)

印刷所：中西印刷株式会社
 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル
 TEL: 075-441-3155 FAX: 075-417-2050 E-mail: funtai@nacos.com